



東北大学

東北大学経済学研究科 高齢経済社会研究センター

ニュースレター

第62号, 2022年6月



川内キャンパス内(y)

目次

- 2020年国勢調査結果による宮城県の出生率の検討
- 仙台市民の健康と余暇に関するアンケート調査結果

吉田 浩

陳鳳 明

東北大学経済学研究科 高齢経済社会研究センター

〒980-8576, 宮城県仙台市青葉区川内27-1 東北大学経済学研究科内
電話・FAX番号: 022-795-4789, E-mail: caes.econ.tohoku@gmail.com

2020年国勢調査結果による 宮城県の出生率の検討

東北大学経済学研究科 教授
高齢経済社会研究センター長 吉田 浩

1.はじめに

2022年6月3日、厚生労働省より[「2021年\(令和3年\)の人口動態統計月報年計\(概数\)」](#)が公表された。これに先駆け、2020年『国勢調査』の結果も総務省より公表されている。吉田(2018)では、低下した当時の東北地方の中核県である宮城県の出生率を、中国地方の中核県である広島県と比較しながら検討した。本稿では、それに引き続いて最新の宮城県の合計特殊出生率(TFR)の推移を、最新の国勢調査の結果を使いながら、同様に検討する。厚生労働省の人口動態統計によると2021年の宮城県の合計特殊出生率は1.15で47都道府県中3年連続で45位であった(表1)。また、水準自体も歴史的に最も低い値を記録している。

以下では宮城県の出生率について、広島県と比較しながら検討を行うものとする。

2.宮城県のTFR概観

2-1全国及び広島県との比較

吉田(2018, 2021)では、前回(平成27年)の国勢調査の結果を使いながら宮城県と広島県の出生率とその背景となる社会環境を比較している。このように、出生率について宮城県と広

島県を比較する理由は、両地域は共に200万人台の人口規模であり、政令指定都市を含むという経済・社会的類似性が挙げられる。

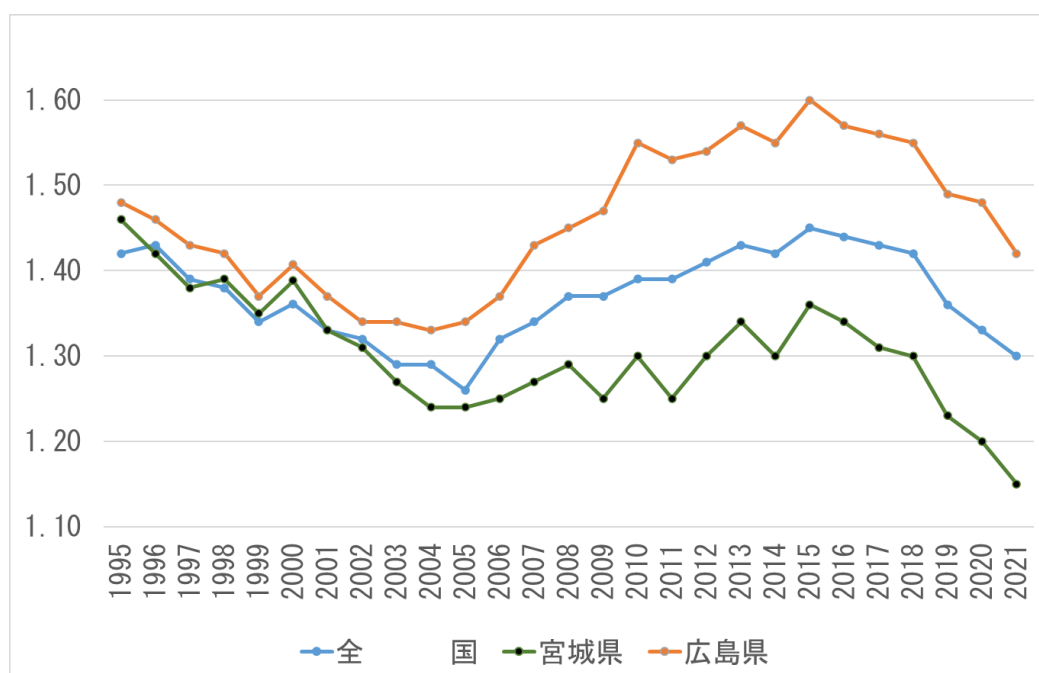
表1 宮城県のTFR順位の推移

	昭50年	55年	60年	平2年	7年	12年	17年	22年	27年	28年	29年	30	R1	R2	R3
1	沖縄	沖縄	沖縄	沖縄	沖縄	沖縄	沖縄	沖縄	沖縄	沖縄	沖縄	沖縄	沖縄	沖縄	沖縄
2	岩手	島根	島根	島根	島根	佐賀	福井	島根	島根	島根	島根	島根	宮崎	宮崎	鹿児島
3	福島	福島	福島	鳥取	福島	福島	島根	宮崎	宮崎	長崎	島根	宮崎	島根	長崎	宮崎
4	滋賀	滋賀	滋賀	福島	宮崎	島根	福島	熊本	鹿児島	宮崎	長崎	鹿児島	長崎	鹿児島	島根
5	長崎	岩手	佐賀	山形	山形	山形	鹿児島	鹿児島	熊本	鹿児島	鹿児島	熊本	佐賀	島根	長崎
6	宮崎	鹿児島	福井	福井	鳥取	鳥取	佐賀	福井	長崎	熊本	熊本	長崎	鹿児島	熊本	熊本
7	鹿児島	山形	鳥取	滋賀	福井	宮崎	宮崎	佐賀	鳥取	福井	鳥取	福井	鳥取	佐賀	福井
8	島根	福井	鹿児島	佐賀	長野	福井	鳥取	長崎	佐賀	大分	香川	佐賀	熊本	福井	佐賀
9	茨城	鳥取	栃木	鹿児島	佐賀	長野	熊本	香川	福井	香川	佐賀	鳥取	香川	大分	大分
10	石川	佐賀	宮崎	岩手	岩手	鹿児島	熊本	山口	香川	佐賀	福井	佐賀	長野	鳥取	鳥取
11	栃木	宮崎	岡山	長野	鹿児島	長崎	山形	大分	滋賀	鳥取	大分	大分	福井	滋賀	香川
12	埼玉	長野	岩手	長崎	熊本	岩手	長崎	広島	広島	福島	福島	長野	山口	山口	山口
13	福井	新潟	新潟	新潟	山梨	新潟	香川	山口	山口	山口	山口	山口	大分	広島	滋賀
14	長野	茨城	山形	宮崎	長崎	滋賀	岩手	滋賀	大分	山口	長野	広島	富山	岡山	岡山
15	岡山	石川	長崎	栃木	新潟	香川	栃木	鳥取	福島	広島	広島	愛媛	広島	徳島	高知
16	広島	茨城	岡山	滋賀	群馬	群馬	長野	長野	愛知	愛知	高知	石川	滋賀	山梨	徳島
17	千葉	宮城	群馬	茨城	秋田	山梨	静岡	愛知	岐阜	岡山	石川	三重	福島	石川	山梨
18	新潟	栃木	山梨	茨城	秋田	山梨	静岡	愛知	岐阜	岡山	石川	三重	福島	石川	山梨
19	佐賀	岡山	長野	群馬	群馬	岡山	滋賀	三重	三重	静岡	愛知	山口	岡山	長野	和歌山
20	静岡	青森	静岡	広島	大分	山梨	山梨	岡山	岡山	石川	岐阜	滋賀	高知	富山	三重
21	愛知	広島	熊本	山梨	大分	栃木	山口	愛媛	静岡	愛媛	岡山	山梨	愛媛	愛知	広島
22	鳥取	熊本	広島	三重	茨城	三重	富山	山形	和歌山	石川	愛媛	岡山	石川	高知	富山
23	青森	三重	愛知	徳島	愛媛	青森	岐阜	岐阜	岡山	山梨	和歌山	富山	徳島	和歌山	愛知
24	岐阜	香川	山口	石川	栃木	茨城	岡山	和歌山	徳島	三重	和歌山	岐阜	三重	三重	岐阜
25	群馬	大分	岐阜	静岡	徳島	岐阜	三重	岩手	愛媛	徳島	岐阜	徳島	愛知	岐阜	愛媛
26	三重	群馬	香川	香川	香川	静岡	石川	群馬	福岡	富山	徳島	静岡	岐阜	福岡	石川
27	山梨	愛知	高知	愛媛	高知	山口	愛媛	山梨	富山	和歌山	福岡	福岡	山梨	静岡	福岡
28	愛媛	岐阜	青森	大分	三重	秋田	秋田	茨城	山梨	福岡	山梨	山形	静岡	愛媛	福岡
29	宮城	静岡	宮城	宮城	山口	富山	新潟	栃木	高知	兵庫	三重	和歌山	福岡	静岡	静岡
30	山形	和歌山	三重	秋田	富山	石川	愛知	石川	岩手	青森	茨城	高知	兵庫	兵庫	兵庫
31	兵庫	秋田	徳島	岐阜	岐阜	和歌山	広島	福岡	栃木	群馬	岩手	群馬	山形	群馬	群馬
32	香川	山口	富山	愛知	静岡	徳島	茨城	新潟	群馬	山形	群馬	茨城	群馬	山形	山形
33	神奈川	愛媛	石川	青森	和歌山	愛媛	和歌山	富山	山形	茨城	兵庫	栃木	茨城	茨城	新潟
34	和歌山	富山	和歌山	富山	広島	高知	高知	徳島	茨城	高知	山形	兵庫	栃木	青森	青森
35	富山	山梨	愛媛	山口	愛知	愛知	青森	高知	兵庫	高知	山形	山形	青森	新潟	栃木
36	熊本	兵庫	大分	和歌山	宮城	広島	全国	兵庫	全国	岩手	全国	全国	新潟	全国	茨城
37	大分	徳島	全国	全国	石川	宮城	徳島	全国	新潟	全国	青森	岩手	全国	栃木	全国
38	山口	全国	千葉	高知	全国	兵庫	福岡	青森	青森	新潟	新潟	新潟	岩手	岩手	岩手
39	全国	千葉	兵庫	兵庫	福岡	全国	兵庫	千葉	埼玉	秋田	埼玉	奈良	秋田	大阪	奈良
40	高知	福岡	福岡	福岡	埼玉	福岡	宮城	大阪	神奈川	埼玉	秋田	大阪	奈良	奈良	大阪
41	大阪	埼玉	埼玉	埼玉	兵庫	大阪	埼玉	埼玉	大阪	大阪	埼玉	大阪	奈良	千葉	埼玉
42	徳島	神奈川	秋田	奈良	千葉	埼玉	千葉	秋田	千葉	神奈川	千葉	千葉	千葉	埼玉	神奈川
43	秋田	奈良	大阪	京都	奈良	千葉	大阪	神奈川	奈良	奈良	神奈川	秋田	神奈川	神奈川	京都
44	奈良	京都	奈良	千葉	神奈川	奈良	神奈川	宮城	宮城	千葉	奈良	神奈川	埼玉	京都	秋田
45	福岡	大阪	神奈川	大阪	京都	神奈川	奈良	奈良	秋田	宮城	宮城	宮城	京都	秋田	千葉
46	北海道	北海道	京都	神奈川	大阪	京都	京都	京都	京都	京都	京都	京都	北海道	北海道	北海道
47	京都	高知	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	宮城	宮城	宮城
48	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京

(出所)『人口動態統計』(厚生労働省)各年版より筆者作成。

これに加えて、図1に示す通り、1995年には両地域の合計特殊出生率に大きな違いがなかったのに対し、その後両地域の出生率の開きが大きくなってきたということも挙げられる。

図1 宮城県・広島県および全国の合計特殊出生率の推移



(出所)厚生労働省『人口動態統計』(各年版)より筆者作成

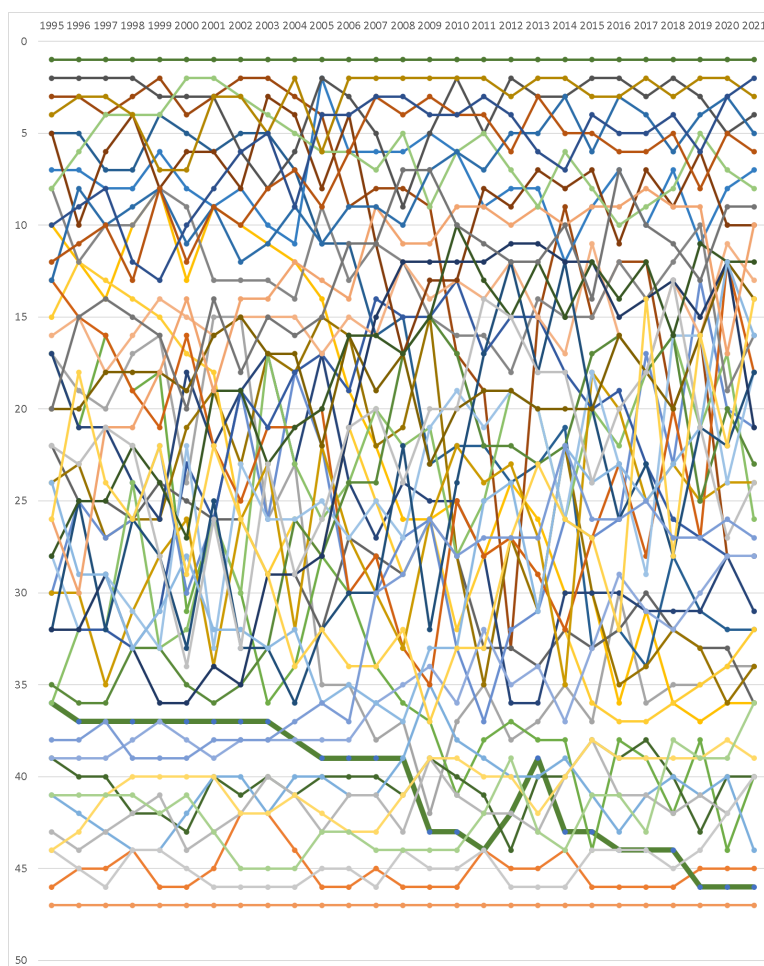
宮城県と広島県の合計特殊出生率は、全国のそれと同様のトレンドで推移しているものの、2000年以降は徐々に差異が拡大してきている。

2-2 出生率順位の固定化

全国の都道府県の出生率の比較から、読み取れる傾向として、出生率ランキングにおける地域の固定化が挙げられる。図2は、表1に示された全国の合計特殊出生率の順位の推移をグラフ化したものである。これを見ると、全国の合計特殊出生率の推移に関して、大きく3つ

のグループに分けられる。1つ目のグループは1位から12位～13位前後までの都道府県のグループ、2つ目はそれ以降の14位～35位前後までのグループである。そして、3つ目は下位のグループである。これら3つのグループの推移を概観すると、第1と第3グループ、すなわち、合計特殊出生率が上位のグループと下位のグループで、固定化の傾向が伺える。

図2 全国の合計特殊出生率の推移



(出所) 表1と同じ。宮城県は、図の下部の緑色の太線。

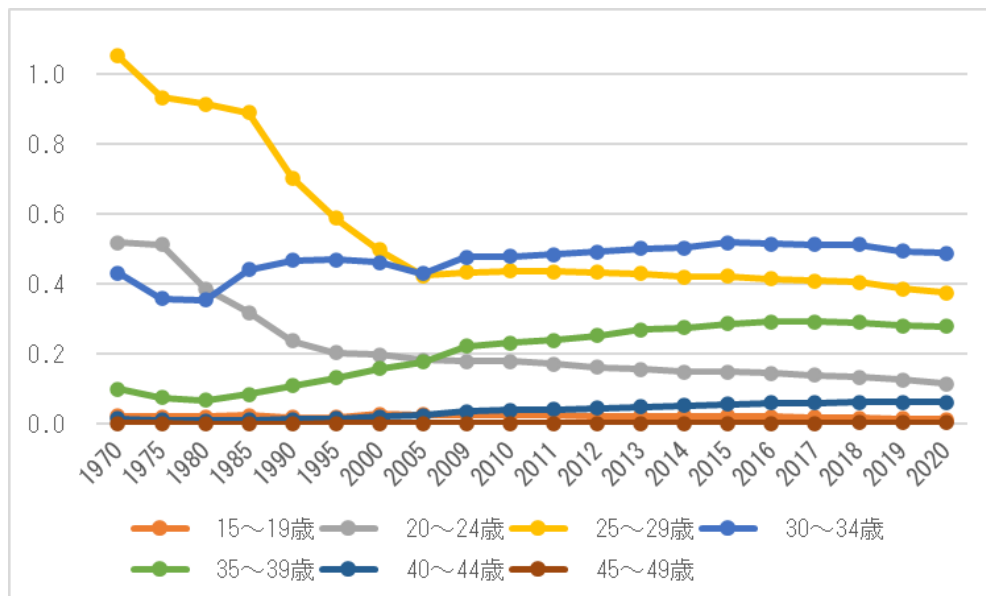
3.宮城県と広島県の社会環境の比較

以下では、宮城県と広島県で出生にかかわりのある社会環境を比較することとする。

3-1 出生率の高い年代とその人口

ここで、分析の焦点とするべき女性の年代について検討を行う。図3は母親の年齢(5歳)階級別の出生率の推移を見たものである。これを見ると、母親が最も子どもを生む年齢層は、2000年以前は25歳から29歳の階級であったが、それ以降は30歳から34歳の年齢層であることが分かる。また、1980年までは、20歳から24歳での出生率も高かったが、現在では35歳から39歳の出生率の方が高くなっている。これらのことから、近年では出生率の高い年代は20歳代からもっと上の30歳代にシフトしていることが分かる。

図3 母の年齢(5歳階級)にみた出生率



(出所)『令和2年 人口動態統計』(厚生労働省)

そこで、以下では出生率の高い30歳から34歳の女性に焦点を絞って検討を行うこととする。

3-2 婚姻状況

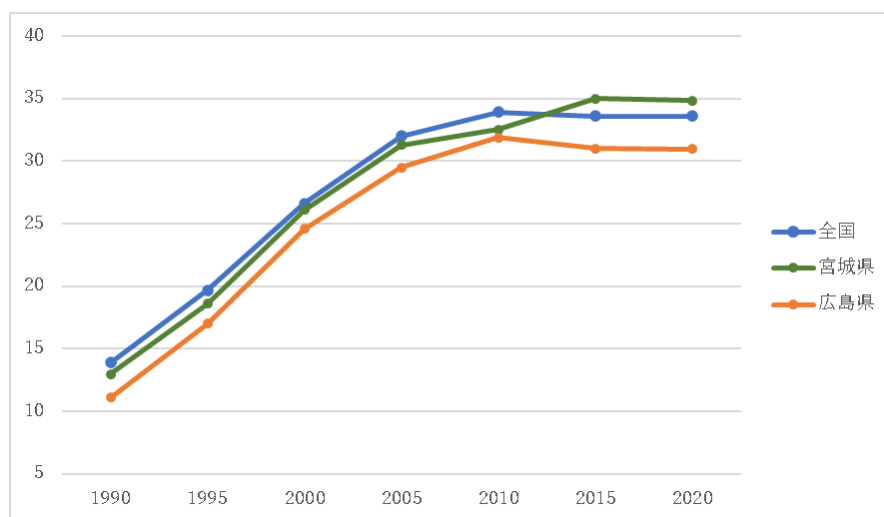
ここでは、出生にかかわる婚姻に注目することとする。地域の婚姻状況を知ることのできる資料は2つある。1つは同じ「人口動態統計」の都道府県別婚姻件数並びに婚姻率(人口千対)である。この統計は毎月・毎年得られるものの、その期間に婚姻をした者(いわばフローの統計)のみが対象であるため、すでに婚姻し、その時点で婚姻状態にある者がその地域の出生率と関わりの深い要因として、この30歳から34歳の階級の婚姻状況を比較するにどの程度存在するのかというストックの統計を得られない。もう1つの資料は国勢調査である。国勢調査は5年ごとにしか得られないが、各調査時点における婚姻の現状を確認することができる。そこでここでは、はじめに2020年の国勢調査を用いて、30歳から34歳の女性の婚姻状況を見ることとする。

図4を見ると宮城県の30歳から34歳の女性の未婚率は常に広島県より高いことが分かる。さらに、2015年には宮城県の未婚率は全国レベルより高くなる一方で、広島県の未婚率は低下しており、両者の乖離は大きくなっている。その傾向は2020年でも続いており、宮城県において最も子どもをもうける世代である30歳から34歳の女性が「未婚であること」が少子化の原因の1つであると考えられる。

図5に示すとおり、同時期の「人口動態統計」の都道府県別婚姻件数並びに婚姻率(人口千対)を見ると、宮城県は2006年から2011年にかけて婚姻率が全国、広島県よりも低く、この影響が5年から10年たって30歳から34歳の世代の女性の未婚率につながっているとい

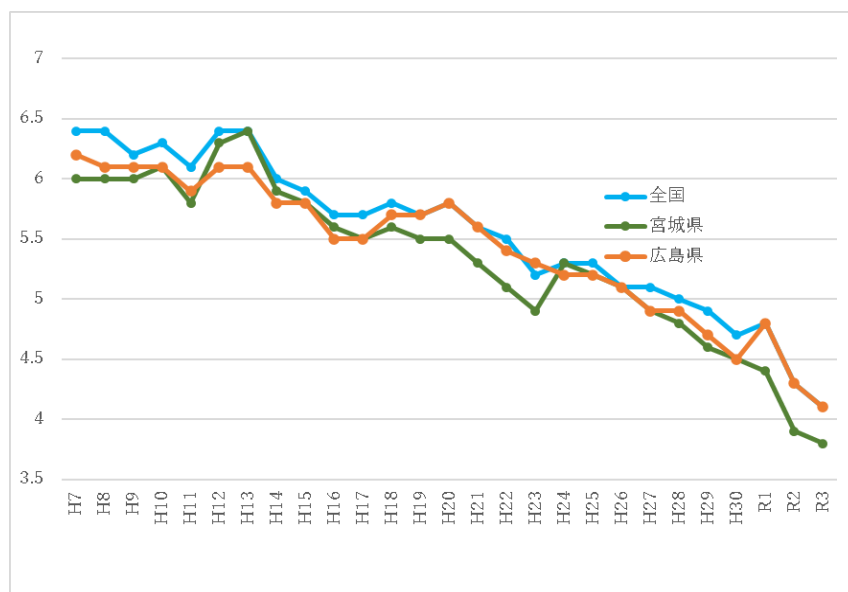
える。2011年は東日本大震災であったため、婚姻率が落ちたとしても、それ以前から婚姻の減少が起きていたことは注目に値する。また、令和に入ってから宮城県の落ち込みが大きいことも特徴である。

図4 宮城県、広島県、全国の30～34歳女性の未婚率の推移



(出所)『令和2年 国勢調査』および『国勢調査(各年版)』(総務省)

図5 宮城県、広島県、全国の婚姻率(人口千対)の推移



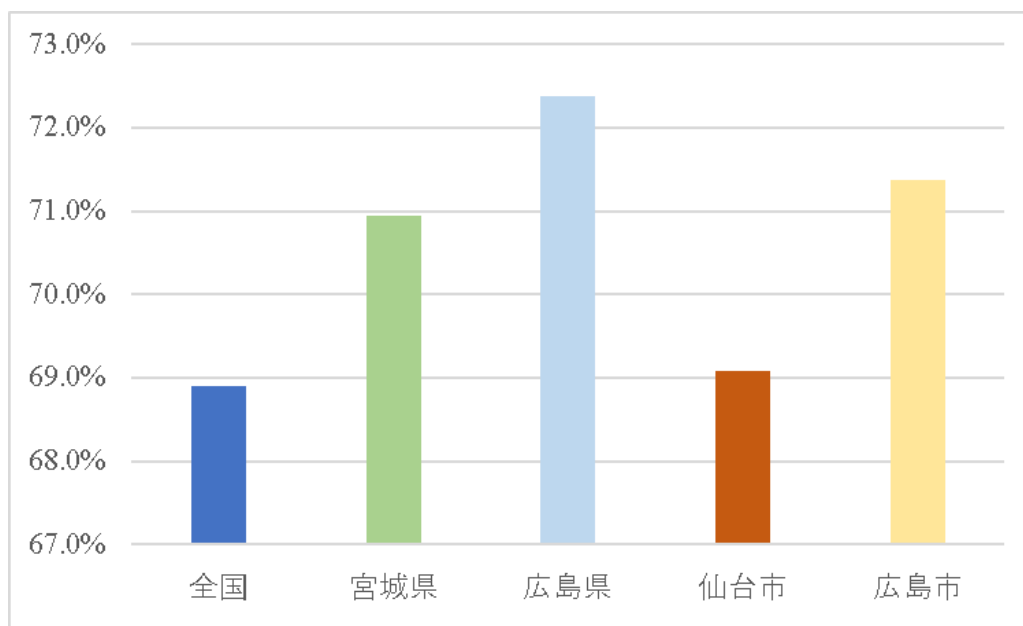
(出所)『人口動態統計(各年版)』(厚生労働省)

3-3 女性の就業状況

3-3-1 年齢別就業状況

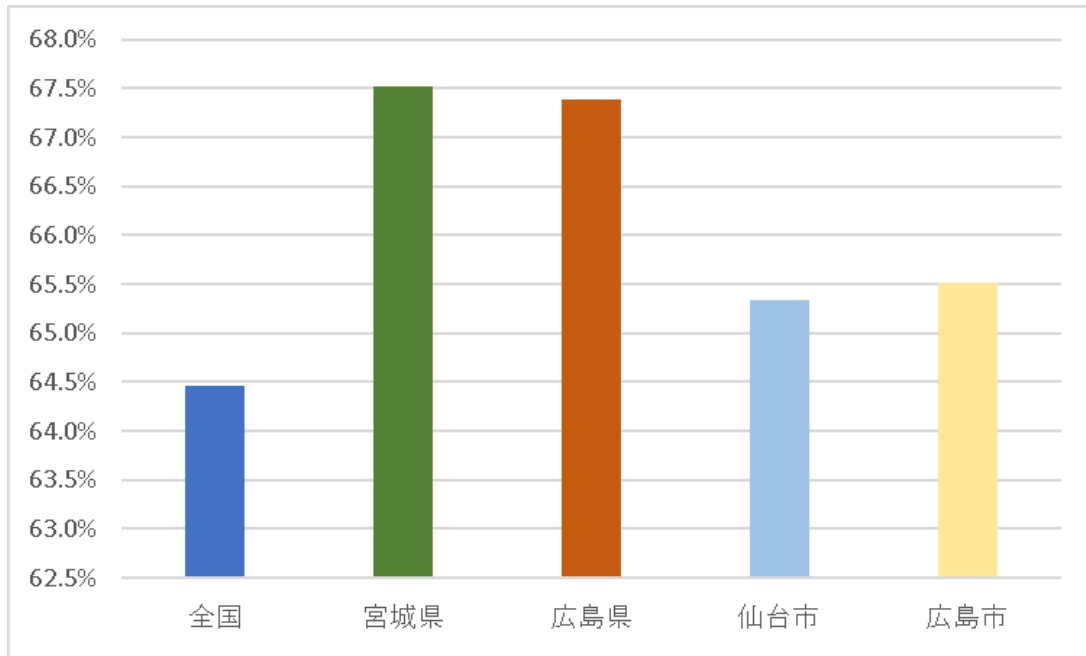
次に、女性の就業状況についてみることにする。ここでは、25歳～29歳および30歳～34歳の女性の就業率(=就業人口／人口)を比較することとする。図6を見ると、宮城県および仙台市の25歳～29歳の女性の就業率は全国を上回るものの、広島県および広島市の水準より下回っていることが分かる。この世代の女性が子育てと就業が両立できていない(就業をあきらめた)可能性を示唆する。逆に図7では、宮城県や仙台市の30歳～34歳の女性の就業率は広島県や広島市と大きく差があるわけではないことが分かる。

図6 25歳～29歳の女性の就業率



(出所)『令和2年 国勢調査』(総務省)

図7 30歳～34歳の女性の就業率



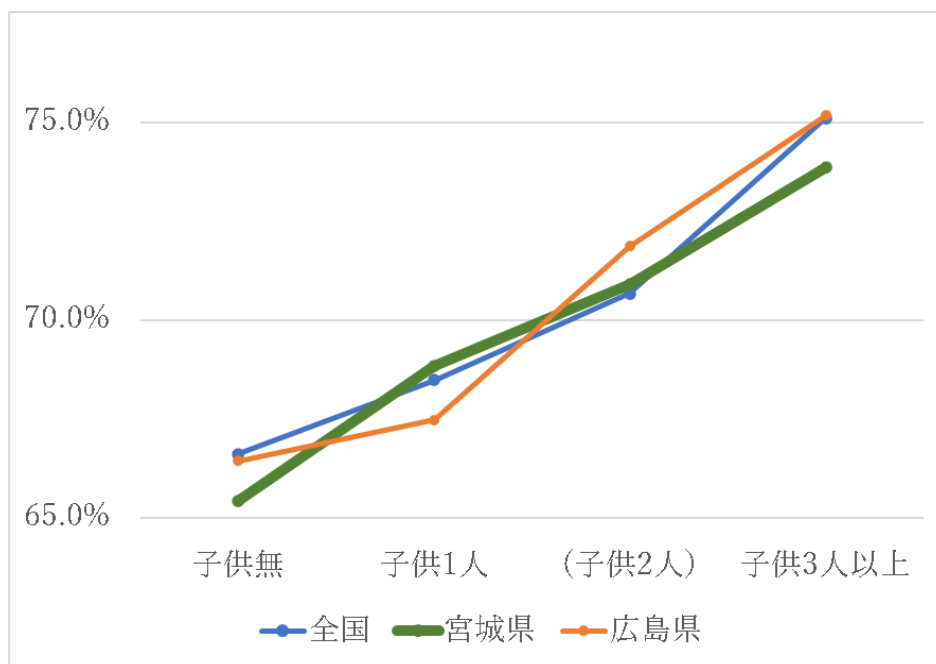
(出所)『令和2年 国勢調査』(総務省)

3-3-2 子どもの有無と就業状況

次に、世帯の子どもの有無、子どもの人数別に、女性の就業状況を確認する。図8は、夫が就業者の夫婦のいる核家族世帯について、子どもなし、子ども1人(子どもの年齢が3歳から5歳)、子ども2人(最年少の子どもの年齢が3歳から5歳)、子ども3人以上(最年少の子どもの年齢が3歳から5歳)の各世帯の中に占める、妻が就業である世帯の割合を示している。これを見ると、全国および広島県は子どもの数が増えるにしたがって妻の就業率が増加していることが分かる。これは、子ども数の増加に従って、妻(母親)の年齢が上がると考えられるので、女性就業のいわゆるM字カーブの上昇パートにあたるためと考えられる。宮城県について

は、子ども数の増加による就業率の増加が、全国および広島県より小さい。ここでも、宮城県における女性の子育てと仕事の両立が難しい可能性を示している。

図8 子ども的人数と母親の就業率



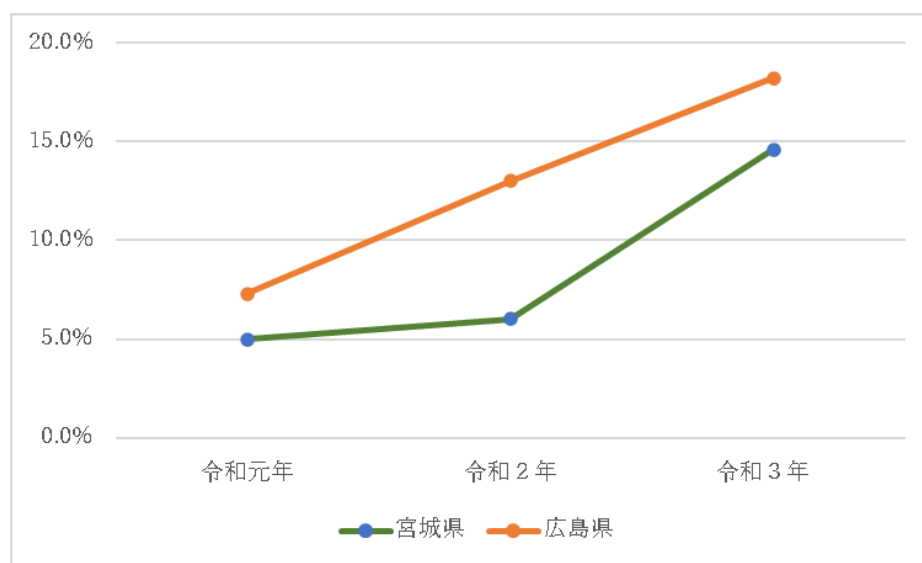
(出所)『令和2年国勢調査』就業状態等基本集計、第25-4表 夫婦のいる世帯の家族類型、子供の有無・数、最年少の子供の年齢、夫の労働力状態、妻の労働力状態別一般世帯人員(夫婦のいる一般世帯)ー全国、都道府県、市区町村:夫婦のいる一般世帯より作成

3-4 子育て資源の状況

最後に、子育て資源の地域的な状況として、男性の育児参加を促進させる機能として、男性労働者の育児休業取得率と子育て施設として待機児童に関する状況を宮城県と広島県で比較する。

はじめに、図9に両県の男性労働者の育児休暇取得率を示した。この図で示された令和元(2019)年から令和3(2021)年までの間のすべての時点で、広島県の男性労働者の育児休暇取得率が宮城県の男性の育児休暇率を上回っていることが分かる。

図9 男性労働者の育児休業取得率



(出所)「労働実態調査結果報告書(各年度版)」宮城県経済商工観光部雇用対策課
「広島県職場環境実態調査結果(各年度版)」広島県商工労働局

次に、表2には令和4年4月1日時点の全国の待機児童に関する状況が示されている。

表2を見ると、宮城県の待機児童率は0.17%であるのに対して、広島県の待機児童率は0.01%と10分の1以上小さくなっている。これらのことから、両県の家庭内、家庭外での育児環境に大きな差異があることが分かる。

表2 全国の待機児童に関する計数

都道府県	待機児童数	待機児童率	都道府県	待機児童数	待機児童率	都道府県	待機児童数	待機児童率
	人	%		人	%		人	%
北海道	22	0.03	新潟県	0	0.00	鳥取県	0	0.00
青森県	0	0.00	富山県	0	0.00	島根県	0	0.00
岩手県	35	0.12	石川県	0	0.00	岡山県	79	0.16
宮城県	75	0.17	福井県	0	0.00	広島県	8	0.01
秋田県	7	0.03	山梨県	0	0.00	山口県	14	0.05
山形県	0	0.00	長野県	9	0.02	徳島県	0	0.00
福島県	23	0.07	岐阜県	0	0.00	香川県	19	0.08
茨城県	8	0.01	静岡県	23	0.03	愛媛県	25	0.10
栃木県	14	0.03	愛知県	53	0.03	高知県	4	0.02
群馬県	1	0.00	三重県	64	0.16	福岡県	100	0.08
埼玉県	296	0.21	滋賀県	118	0.32	佐賀県	8	0.03
千葉県	250	0.20	京都府	17	0.03	長崎県	0	0.00
東京都	300	0.09	大阪府	134	0.07	熊本県	9	0.02
神奈川県	220	0.12	兵庫県	311	0.26	大分県	0	0.00
			奈良県	81	0.31	宮崎県	0	0.00
			和歌山県	30	0.15	鹿児島県	148	0.37
						沖縄県	439	0.71
						計	2,944	0.10

(出所)「保育所等関連状況取りまとめ(令和4年4月1日)」(厚生労働省)

4. まとめ

本稿では、宮城県の出生率低下の要因を広島県の社会経済変数と比較しながら検討した。その結果、宮城県では出産ピーク世代での女性の既婚率が低く、25歳から29歳の女性で0歳から5歳の子どもを育てながら就業している女性の比率が低いこと。また、育児資源に係わる環境として、宮城県の男性労働者の育児休暇取得率の低さや待機児童率の高さなどにおいて広島県との差異が残っていることが明らかとなった。

参考文献

厚生労働省『人口動態統計』各年版

総務省統計局『令和2年国勢調査報告』

厚生労働省「保育所等関連状況取りまとめ（令和4年4月1日）」

吉田 浩(2018)「宮城県の出生率の推移-広島県と比較して-」[高齢経済社会研究センター News Letter 2018.9 \(No.17\)](#) .

吉田 浩(2021)Wedgeインターネット版「中核地域の宮城と広島 出生率がこれだけ違うのはなぜ？女性の活躍と地域の持続可能性」<https://wedge.ismedia.jp/articles/-/25000> .

仙台市民の健康と余暇に関する調査結果

東北大学 経済学研究科 助教 陳鳳明

1. はじめに

一般社団法人地域創生協議会は、仙台市民の健康状態や余暇の利用に関する意識を把握するために、訪問留置・訪問回収法を用い、仙台市内に居住する消費者モニター1,000人を対象にアンケート調査を行った。この調査は令和4年4月から5月にかけて実施されており、回収率は100%である。地域別・年齢別・性別で均等の割合でサンプルを抽出しており、各セルの分布状況は表1にまとめている。高齢経済社会研究センターは、この調査の個票データを借り受けている。

表1 サンプルの分布状況

		青葉区	宮城野区	若林区	太白区	泉区	合計
男性	20歳代	20	20	20	20	20	100
	30歳代	20	20	20	20	20	100
	40歳代	20	20	20	20	20	100
	50歳代	20	20	20	20	20	100
	60歳代	20	20	20	20	20	100
女性	20歳代	20	20	20	20	20	100
	30歳代	20	20	20	20	20	100
	40歳代	20	20	20	20	20	100
	50歳代	20	20	20	20	20	100
	60歳代	20	20	20	20	20	100
合計		200	200	200	200	200	1,000

2. 基本集計結果

調査の中で、身体の状態や今年のゴールデンウィークの予定などの6質問を設定した。ここで無回答の結果を除き、質問ごとの基本集計を行った。これらの結果に基づき、仙台市民の健康意識や余暇の利用に関する実態を把握できると言える。

2.1 身体の状態

当調査では、「現在、あなたの身体の状態はいかがですか」という質問を聞いており、回答の選択肢は「1. 良い」、「2. まあまあ良い」、「3. あまり良くない」、「4. 良くない」となっている。表2は身体の状態に関する回答結果をまとめている。987名の有効回答者の中で、7割強の人は「良い」または「まあまあ良い」と答えている。わずか4%の回答者は身体の健

健康状態が良くないと回答している。残りの約2割の人は身体健康状態にやや問題があることがわかる。

表2 身体健康状態(単一回答)

	N	%
1.良い	209	21.2
2.まあまあ良い	550	55.7
3.あまり良くない	189	19.2
4.良くない	39	4.0
合計	987	100.0

注:「問1 現在、あなたの身体健康状態はいかがですか」という質問に対して、個票データを用い、筆者作成。無回答は集計から除外されている。四捨五入により合計が合わない場合がある。

2.2 健康を維持・増進するための実施中の活動

次に、調査の中で、健康を維持・増進するために現在行っていることについて尋ねており、集計結果は表3に示している。上記の表2と同様に無回答を集計から除外している。また、これらの質問に関しては、複数回答となっているため、結果の解釈に留意する必要がある。表3によれば、健康を維持・増進するために実施中の活動のうち、食事関連の活動の実施割合は高く、「栄養バランスを考えた食事をとる」、「脂質や糖質などの取りすぎないようにしている」、「塩分の摂取を控えている」については、それぞれ33.8%、21.7%、23.8%となっている。また、運動も健康を維持・増進するための手段として広く利用されており、回答者の中で33.7%は「定期的に運動をしている」と答えている。一方、コロナの影響を受け、ジムやスポーツクラブのような密閉の環境から離れる意識が高まり、「ジムやスポーツクラブなどに通っている」の実施割合は低く、1割を下回っている。外出自粛やソーシャルディスタンスの維持などの感染防止対策の実施や景気後退などの影響により、ストレスが溜まりやすい状況に置かれており、普段から

「ストレスを溜めないようにしている」人も28.1%に達していることがわかる。さらに、「日常的に体重・体脂肪・血圧などを測定している」と「職場(あるいは学校)などの検診以外で、定期的な健康診断を行っている」と回答している人の割合はそれぞれ19.0%、25.7%となっている。セルフモニタリングや健康診断といった方法も健康維持・増進の手段として広く活用されていることがうかがえる。

表3 健康を維持・増進するための実施中の活動(複数回答)

	N	%
1. 定期的に運動をしている	335	33.7
2. ジムやスポーツクラブなどに通っている	77	7.8
3. 栄養バランスを考えた食事をとる	336	33.8
4. 脂質や糖質などの取りすぎないようにしている	216	21.7
5. 塩分の摂取を控えている	237	23.8
6. ストレスを溜めないようにしている	279	28.1
7. 日常的に体重・体脂肪・血圧などを測定している	189	19.0
8. 就寝前のカフェインやアルコール、たばこは控えている	117	11.8
9. 就寝30分前からはスマホやテレビを見ないようにしている	35	3.5
10. 職場(あるいは学校)などの検診以外で、定期的な健康診断を行っている	255	25.7
11. その他	18	1.8
12. どれもなし	178	17.9
有効回答総数	994	-

注:「問2 健康を維持・増進するために現在行っていることをお答えください」という質問に対して、個票データを用い、筆者作成。割合は各選択肢を選んだ回答者数が有効回答総数に占める比率を表している。

続いて健康を維持・増進するために、改善したい内容の回答結果を確認する。表4を見ると、運動不足、食生活とストレスの解消の回答割合はそれぞれ4割を超えており、上記の表3の

実施中の活動の回答結果と概ね一致している。一方、睡眠不足の回答結果は38%に達しており、運動不足に比べてやや低いが決して小さな問題ではない。表3の結果を見ると、「就寝前のカフェインやアルコール、たばこは控えている」や「就寝30分前からはスマホやテレビを見ないようにしている」の実施割合は低く、運動不足のように自ら解決しようという動きはあまり見られていない。これは睡眠不足の形成要因が複雑で自助努力のみで改善効果が短期的に現れにくい可能性が高い。

表4 改善したい内容(複数回答)

	N	%
1.運動不足	484	49.5
2.睡眠不足	371	38.0
3.食生活	429	43.9
4.ストレスの解消	396	40.5
5.高血圧など	214	21.9
6.肥満	271	27.7
7.その他	15	1.5
8.特にない	12	1.2
合計	977	-

注:「問3 あなたが、健康を維持・増進するために、改善したいと思っていることは、どれですか」という質問に対して、個票データを用い、筆者作成。無回答は集計から除外されている。四捨五入により合計が合わない場合がある。

調査の中で、「あなたが、健康を維持・増進するためにスマホに追加したい機能は、どれですか」という質問も設定している。血圧計機能の回答割合は圧倒的に高く、3分の1の回答者は血圧計機能に対して強い要望があることがわかる。そして、体脂肪計機能と体温計機能についても4分の1の回答者はスマホに追加したいと回答している。一方、カリウム・ナトリウム等

塩分の摂取量計測機能の回答結果については、比較的lowく、全体の1割を下回っている。

表5 スマホに追加したい機能について(複数回答)

	N	%
1.口臭検知機能	113	11.7
2.睡眠時間計測機能	177	18.3
3.体温計機能	249	25.7
4.脈拍計機能	119	12.3
5.体脂肪計機能	271	28.0
6.血圧計機能	337	34.9
7.カリウム・ナトリウム等塩分の摂取量計測機能	91	9.4
8.その他	19	2.0
9.どれもない	338	35.0
合計	967	-

注:「問4 健康を維持・増進するためにスマホに追加したい機能は、どれですか」という質問に対して、個票データを用い、筆者作成。無回答は集計から除外されている。四捨五入により合計が合わない場合がある。

次に、新型コロナウイルスのワクチン接種の心配事について、状況を確認する。表6は集計結果を示している。表6を見ると、「副反応(軽い発熱、腕の痛みなど)」と回答している人の割合は圧倒的に高く、全体の6割を超えている。「ワクチンを打っても感染してしまうこと」について心配している回答者は46.1%に達しており、「将来、思いもよらない副作用が発見するかもしれないこと」の回答割合も3割を超えている。ワクチンの効果については、疑問を持っている人は少なくないため、これらの人の疑問を解消し、納得できる科学的根拠を明示する必要がある。

あると言える。

表6 新型コロナウイルスのワクチン接種の心配事(複数回答)

	N	%
1. 副反応(軽い発熱、腕の痛みなど)	623	63.4
2. 急に様態が悪くなって死亡するかもしれないこと	223	22.7
3. 何度もワクチンを打つと基礎的な免疫力が下がるかもしれないこと	168	17.1
4. 将来、思いもよらない副作用が発現するかもしれないこと	336	34.2
5. ワクチンを打っても感染してしまうこと	453	46.1
6. ワクチンを接種するまでの手間(予約、会場、時間)が負担になること	231	23.5
7. その他	27	2.7
8. 特になし	23	2.3
合計	983	-

注:「問5 新型コロナウイルスのワクチン接種について、あなたが心配に思っていることはどれですか」という質問に対して、個票データに基づき、筆者作成。無回答は集計から除外されている。四捨五入により合計が合わない場合がある。

最後に調査の中で、今年のゴールデンウィークの予定について尋ねている。表7を見ると、コロナの影響を受け、約7割の回答者は「特に、レジャー・観光・イベントに行く予定はない」と答えている。コロナの感染者数は減少傾向にあるが、コロナ前の状況に戻るまでやはり一定の期間と心の準備が必要であると言える。

表7 今年のゴールデンウィークの予定(複数回答)

	N	%
1.県内で日帰りのレジャー・観光・イベントに行くつもり	188	19.0
2. 県内で泊りがけのレジャー・観光・イベントに行くつもり	55	5.6
3.県外(ただし東北)で日帰りのレジャー・観光・イベントに行くつもり	43	4.4
4.県外(ただし東北)で泊りがけのレジャー・観光・イベントに行くつもり	40	4.0
5.県外(ただし東北以外)で泊りがけのレジャー・観光・イベントに行くつもり	22	2.2
6. 海外で泊りがけのレジャー・観光・イベントに行くつもり	7	0.7
7. 特に、レジャー・観光・イベントに行く予定はない	700	70.9
合計	988	-

注:「問6 あなたは、今年のゴールデンウィークはどのように過ごす予定ですか」という質問に対して、個票データに基づき、筆者作成。無回答は集計から除外されている。四捨五入により合計が合わない場合がある。

3. まとめ

本稿では、仙台市民の健康と余暇に関するアンケート調査について集計を行い、仙台市民の健康意識などを把握した。回答者の中で約8割の人は良好な身体の状態を持っている。コロナ禍で運動不足や食生活に悩まれている方は多いが、自ら解決策を講じている人は少なくない。ワクチンの接種については、やはりワクチンの効果を心配している人の割合は高く、これらの人を安心させて、科学的根拠を明示する必要があると言える。コロナの影響が長引いているため、7割の回答者は今年のゴールデンウィークでレジャー・観光・イベントに行く予定がなく、コロナ前の生活に戻るまでには一定の期間と心の準備が必要であると言える。

謝辞: 本研究は、JST、COI、JPMJCA2202の支援を受けたものである。また、一般社団法人地域創生協議会より個票データの提供を受けて、感謝いたします。

調査票

●健康状態等について、おたずねいたします。

問1 現在、あなたの身体の状態はいかがですか。(○は1つだけ)

1. 良い	2. まあまあ良い	3. あまり良くない	4. 良くない
-------	-----------	------------	---------

問2 健康を維持・増進するために現在行っていることをお答えください。(○はいくつでも)

1. 定期的に運動をしている
2. ジムやスポーツクラブなどに通っている。
3. 栄養バランスを考えた食事をする
4. 脂質や糖質などの取りすぎないようにしている。
5. 塩分の摂取を控えている。
6. ストレスを溜めないようにしている。
7. 日常的に体重・体脂肪・血圧などを測定している。
8. 就寝前のカフェインやアルコール、たばこは控えている。
9. 就寝30分前からはスマホやテレビを見ないようにしている。
10. 職場(あるいは学校)などの検診以外で、定期的な健康診断を行っている。
11. その他()
12. どれもなし

問3 あなたが、健康を維持・増進するために、改善したいと思っていることは、どれですか。

(〇はいくつでも)

- | | | | |
|----------|---------|-----------|------------|
| 1. 運動不足 | 2. 睡眠不足 | 3. 食生活 | 4. ストレスの解消 |
| 5. 高血圧など | 6. 肥満 | 7. その他() | 8. 特になし |

問4. 健康を維持・増進するためにスマホに追加したい機能は、どれですか。(〇はいくつでも)

- | | | |
|--------------------------|-------------|----------|
| 1. 口臭検知機能 | 2. 睡眠時間計測機能 | 3. 体温計機能 |
| 4. 脈拍計機能 | 5. 体脂肪計機能 | 6. 血圧計機能 |
| 7. カリウム・ナトリウム等塩分の摂取量計測機能 | 8. その他() | |
| 9. どれもなし | | |

●新型コロナウイルスのワクチン接種について、おたずねします。

問5 新型コロナウイルスのワクチン接種について、あなたが心配に思っていることはどれですか(○はいくつでも)

1. 副反応(軽い発熱、腕の痛みなど)
2. 急に様態が悪くなって死亡するかもしれないこと
3. 何度もワクチンを打つと基礎的な免疫力が下がるかもしれないこと
4. 将来、思いもよらない副作用が発現するかもしれないこと
5. ワクチンを打っても感染してしまうこと
6. ワクチンを接種するまでの手間(予約、会場、時間)が負担になること
7. その他()
8. 特にない

●最後に、ゴールデンウィークの過ごし方について、おたずねします。

問6 あなたは、今年のゴールデンウィークはどのように過ごす予定ですか。(○はいくつでも)

1. 県内で日帰りのレジャー・観光・イベントに行くつもり
2. 県内で泊りがけのレジャー・観光・イベントに行くつもり
3. 県外(ただし東北)で日帰りのレジャー・観光・イベントに行くつもり
4. 県外(ただし東北)で泊りがけのレジャー・観光・イベントに行くつもり
5. 県外(ただし東北以外)で泊りがけのレジャー・観光・イベントに行くつもり
6. 海外で泊りがけのレジャー・観光・イベントに行くつもり
7. 特に、レジャー・観光・イベントに行く予定はない

The Research Center for Aged Economy and Society



Newsletter

No.62, June, 2022

Contents

- Focusing on the Fertility Rates in Miyagi Prefecture
Based on 2020 Census Results

Hiroshi YOSHIDA

- Results of the Questionnaire Survey on Health Status
and Leisure Among the Residents of Sendai City

Fengming CHEN

The Research Center for Aged Economy and Society, Tohoku University.

27-1, Kawauchi, Aoba-ku, Sendai City, 980-8576, JAPAN

Telephone and facsimile number: +81-22-795-4789

E-mail: caes.econ.tohoku@gmail.com